

北見工業大学後援会「KIT げんき会」総会

期 日：平成24年7月1日（日）

場 所：北見工業大学

開 催 次 第

総 会 10:30から

1. 開会
2. 挨拶
 - 1) 北見工業大学後援会「KIT げんき会」会長
 - 2) 北見工業大学長
3. 役員の一部改選について
4. 平成23年度事業報告、決算報告について
5. 平成24年度事業計画（案）、収支予算（案）について
6. その他
7. 閉会

北見工業大学後援会「KITげんき会」
H24年度役員名簿

- 顧問 小谷 每彦（北見市長）
" 鮎田 耕一（北見工業大学学長）
- 会長 永田 正記（オホーツク商工会議所協議会会長・北見商工会議所会頭）
- 副会長 越膳 良臣（北見工業大学同窓会顧問）
" 倉本 登（北見鉄工協同組合理事長）
" 西川 孝範（きたみらい農業協同組合代表理事組合長）
" 古屋 聖兒（北見医師会会長）
" 戸田 龍一（北見商工会議所中小企業委員会委員長）
- 常務理事 高橋 信夫（北見工業大学理事・副学長）
- 理事 太布 康洋（北見信用金庫理事長）
" 遠藤 雅人（北見ぼらんち会会長）
" 石澤 徳司（北見地区電気工事業協同組合理事長）
" 松浦 信一（北見歯科医師団団長）
" 村井 泰彦（北見建設業協会会長）
" 小泉 勝裕（北見工業団地会会長、北見管工事事業協同組合代表理事）
" 小西 啓之（協同組合日専連北見代表理事）
" 梅津 行雄（一般社団法人日本自動車販売協会連合会北見支部支部長）
" 黒部 哲哉（北見観光協会会長）
" 佐々木 一明（協同組合北見総合卸センター理事長）
" 佐々木 敏行（北見舗装協会会長）
" 別所 博文（北見金融協会会長）
" 清水 大（北見薬剤師会会長）
" 橘 邦彦（北見工業大学同窓会顧問）
" 富山 佳男（北見測量設計協会会長）
" 永田 裕一（北見物産協会会長）
" 西川 治彦（北海道獣医師会オホーツク支部支部長）
" 海田 有一（北海道中小企業家同友会オホーツク支部支部長）
" 真柳 正裕（北見市商店街振興組合連合会理事長）
- 監事 小澤 實之郎（北見商工会議所監事）
" 牧野 勇治（北見工業大学同窓会北見支部支部長）

（順不同：敬称略）

北見工業大学後援会 KITげんき会

平成23年度 事業報告書

目 次

1	学生に対する支援	
(1)	大学院学生に対する奨学金支給	1
(2)	語学研修プログラムへの参加旅費の助成	
	中国	9
	ドイツ	15
	カナダ	23
(3)	インターナショナルCアワー開催の助成	31
(4)	図書館配架用学生向け参考図書購入の助成	33
2	研究者、研究生の交流支援	
	若手研究者の国際会議参加旅費等の助成	37
3	大学広報等への支援	
	女満別空港広告看板掲出料の助成	41

平成 23 年度 K I T げんき会事業実施報告書

担当課名： 学生支援課

1 実施事業名

大学院学生に対する奨学金支給

2 事業の概要

博士前期課程 1 ヶ月あたり 4 万円（平成 23 年度は該当者なし）

博士後期課程 1 ヶ月あたり 3 万円（下記の者に支給）

	氏 名	所属・学年	備 考
1	菅原 庸平	寒冷地・環境・エネルギー工学専攻 1 年	
2	河野 勝宣	寒冷地・環境・エネルギー工学専攻 2 年	
3	柴田 啓貴	寒冷地・環境・エネルギー工学専攻 2 年	
4	西川慎之介	医療工学専攻 2 年	
5	松本 経	システム工学専攻 2 年	
6	日下 稜	寒冷地・環境・エネルギー工学専攻 1 年	10 月入学

3 支給対象者報告

所属専攻・学年	寒冷地・環境・エネルギー工学専攻 1年
氏名	菅原 庸平
報告	<p>高度で最先端の研究を行うためには、知識レベルを向上させるための環境づくりが欠かせません。例えば、文献調査は優れた研究を行うために必要不可欠であり、特に大学院に入ると多数の文献を読まなくてはなりません。しかし、研究に必要な文献が常に図書館等に揃っているとは限らず、各自で用意することも多々あります。それらの文献を購入していくことは、学生にとって大きな出費となります。また、柔軟で様々な視点から考察出来るような能力を得るために、学内のみならず、学外で議論することによって知識を高めていく必要があります。</p> <p>そのために KIT げんき会から支給された奨学金を、新しい本の購入費用、研究環境を整えるための設備費用、学外活動のための費用、日々の生活費の補助等に有効的に役立ててまいりました。さらに、国際的な知見を広めるために海外の大学へ赴き、新たな情報の収集や研究のための議論を行ってまいりました。その際にも、滞在費や海外の文献の収集に支給された奨学金を利用しました。</p>
謝辞	<p>KIT げんき会会員の皆様のご支援により、研究に必要な文献や研究環境をより良いものにすることが出来ております。それにより、様々な知識と経験を得てより有意義な研究成果を出すことが可能になったと考えております。心から感謝いたします。</p> <p>また、国内外で活躍出来る研究者・技術者になるために日々邁進してまいりますので、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。</p>

所属専攻・学年	寒冷地・環境・エネルギー工学専攻 2年
氏名	河野 勝宣
報告	<p>奨学金は、主に、所属学会の会員費、文献図書購入、英語論文校閲などの研究活動をおこなうための資金、また、6th ARMS(ニューデリー、2010)および 12th ISRM Int. Cong. on Rock Mech. (北京、2011) における国際会議出席費用の一部に充てました。これらのことにより、必要である基礎的専門知識・技術の習得、査読付き国内誌および国際誌への論文投稿、学会発表をおこなうことができました。</p> <p>その結果、奨学金を受給していた博士後期課程在籍の2年間で、査読付き学術論文8編(筆頭著者:5編)、国際会議プロシーディングス5編(筆頭著者:3編)、その他の参考論文1編(筆頭著者)および国内講演予稿集8編(筆頭著者:2編)の出版と、さらに、内外の研究者や専門家との意見交換を活発におこなう中で、研究に対する見識を深めることができ、今後の研究に大いに役立つ情報を得ることができました。</p>
謝辞	<p>私が、博士後期課程在籍の2年間、アルバイトなどもせずに落ち着いて勉学・研究活動をおこなえたのも北見工業大学大学院学生奨学金によるものです。また継続して研究活動をおこなえたことにより、大学の教員(助教)のポストに就くこともできました。</p> <p>北見工業大学後援会「KIT げんき会」の会員の皆様に心よりお礼申し上げますとともに、益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。</p>

所属専攻・学年	寒冷地・環境・エネルギー工学専攻 2年
氏 名	柴田 啓貴
報 告	<p>私は、研究活動の中で海氷の現場観測をしています。海氷の観測できる地域は限られており、私の訪れる先は凍った湖の上や夏季の北極海です。日中とはいえ、厳寒地として知られる冬季北海道や夏期北極海で観測を行なうため、特殊な防寒対策が必須になります。街での普段着よりも、特殊な防寒対策が必要となるため、費用が高額になります。そのため、奨学金は個人の防寒着の購入に多く割り当てさせて頂いています。</p> <p>また、知見を広げるために、全国の大学生、大学院生が主催になって行う勉強会にも参加しています。毎年、全国各地の大学が持ち回りで主催するため、旅費は大きな負担になります。奨学金はその旅費にも利用させて頂いています。他の学生の頑張っている姿を見ると良い刺激になり、知的好奇心や気力が充実するのを感じます。奨学金のおかげで心身充実した形で研究活動を行なっております。</p>
謝 辞	<p>我々、北見工業大学大学院生のために奨学金を提供していただき、ありがとうございます。</p>

所属専攻・学年	医療工学専攻 2年
氏 名	西川 慎之介
報 告	<p>現在、奨学金を給付していただいている為、私が抱く経済的不安を軽減することが出来ております。その結果、勉強や研究に対して、集中して取り組むことが出来ています。</p> <p>研究成果として、今年2月に化学系学協会北海道支部2012年冬季研究発表会にて、ポスターにて発表を行いました。また、今年8月に日本化学会北海道支部2012年夏季研究発表会にて新しい研究結果を口頭にて発表予定です。また、研究した内容を論文として投稿しています。現在まで、Synthetic Communications、Bulgarian Chemical Communications、Syntheticにて各1報ずつ採用が決まり、印刷待ちの状態です。現在のところ、標準修業年限の3年にて修了見込みです。</p> <p>順調に勉強や研究が進んでいるのは、奨学金があつたことだと思います。ありがとうございます。</p>
謝 辞	<p>KIT げんき会会員の皆様、ご支援ありがとうございます。</p> <p>皆様の支援があることで、私の抱く経済的不安が軽減され、勉強や研究に対して集中出来る現在の学生生活があります。</p> <p>北見工業大学大学院奨学生として、奨学金を給付してもらつて意味を理解し、勉強や研究に一層力を入れていきたいと思つています。</p> <p>今後とも宜しくお願い致します。</p>

所属専攻・学年	システム工学専攻 2年
氏 名	松本 経
報 告	<p>私の研究では知床半島を含む北見周辺地域で現地調査を行うことが多いです。そのため交通費を工面することが研究を達成するための第一条件になるのですが、大学から遠く離れた現地まで何度も往復する必要があるため、費用もそれなりの額になります。</p> <p>また、得られた研究成果を学会で発表する場合でも、開催地はたいていの場合は北海道以外であることが多く、多額の費用の確保に苦労させられます。</p> <p>さらに、私は育児と両立させながらの研究活動に取り組んでいますので、子供の養育費も常に不安の材料となります。</p> <p>そのような状況下で、KIT げんき会からの奨学金は心強い支えとなっています。私を含めて北見工大では本奨学金のおかげで研究活動を維持している人が多いと思います。</p>
謝 辞	<p>以前にくらべると奨学金の支援を得ることが厳しい傾向にある日本で、幸運にも地域と連携した本奨学金による支援を受けることができました。</p> <p>ご支援をいただくなかで、私の研究に取り組む動機として、地域への貢献を深く想う気持ちを育ててくれたと思います。</p> <p>心から感謝を申し上げます。</p>

所属専攻・学年	寒冷地・環境・エネルギー工学専攻 1年
氏名	日下 稜
報告	<p>私は、現在雪氷学研究室で雪崩の研究をしております。最近では秋田県の玉川温泉で岩盤浴中の3人が巻き込まれ、ニュースに大きく取り上げられたため記憶にある方も多いかも知れませんが、雪崩についての研究は数多くありますが、それでも発生を予測することは難しいのが現状です。そこで、雪崩が発生したと聞けば現地に向かい、積雪量や雪質の調査を行うのですが、雪は時間が経つに連れて変化してしまうので時間との勝負です。時間が自由になる学生だからこそできることもあるのです。</p> <p>奨学金は主に家賃や光熱費に当てさせていただいていますが、「KIT げんき会」の奨学金があるからこそ、研究に専念ができます。これは、単にお金の問題ではありません。アルバイトでは、時間の拘束がある上、長期の海外調査などの期間中は無収入になります。奨学金は自由な研究を行う為の大事な資金です。</p>
謝辞	<p>お金の心配をせずに研究が出来る環境の一つを、整備して頂いていることは学生として非常にありがたく、感謝しております。これからも時間の融通が利く学生ならではの研究を行ってゆきたいと思います。</p>

平成 23 年度 K I T げんき会事業実施報告書

担当課名： 研究協力課

1 実施事業名

語学研修プログラムへの参加旅費の助成（中国）

2 事業概要

(1) 研修先

哈爾濱工程大学

(2) 研修期間

2011年8月30日 - 2011年9月24日

(3) 助成対象・金額

3万円

	氏名	所属・学年
1	本原 五月	機械・社会環境系・1年
2	本間 幸仁	機械・社会環境系・1年
3	岩山 光貴	機械・社会環境系・1年
4	久保田 真伍	情報電気エレクトロニクス系・1年
5	堀田 尊	バイオ環境・マテリアル系・1年

3 助成対象者報告

所属・学年	機械・社会環境系・1年
氏名	本原 五月
報告	<p>中国研修で私が得たことは大きく3点あります。1点目は人との交流です。「こんにちは」「ありがとう」程度の中国語しかできない私でしたが、辞書やジェスチャー、英語、漢字など持てる物すべてをフルに活用し多くの人と話すことができました。本当に多くの人と関わり、多くのことを話し、多くのことを知りました。</p> <p>2点目は学ぶ姿勢です。中国で様々な国から来た留学生と勉強していく中で、彼らの勉学に励む姿に、今までの自分が恥ずかしくなる思いでいっぱいでした。何があっても絶対あきらめない、ほんの僅かなことでも聞き逃さずに吸収する、何故できないのかということをとことん追求していく、そんな彼らと共に学んだ3週間は私にとって非常に印象強かったです。</p> <p>3点目は自分の将来について考えたことです。中国では様々な職業を持った中国人や留学生と関わることができました。それ程将来について考えていなかった私にとって、仕事を持った大人、それも外国人の意見を聞いたことは大きな出来事でした。</p>
謝辞	<p>今回の研修に助成金をいただき、ありがとうございました。上記の報告通り、意義のある研修になりました。助成があることで、経済的にも負担が軽くなり、また学習意欲も湧き、とてもよい制度だと思います。</p>

所属・学年	機械・社会環境系・1年
氏名	本間 幸仁
報告	<p>今回の中国での語学研修で、私は本場で中国語を学ぶことが出来ました。日本で学ぶときよりも緊張感があり、とても有意義な学習をすることができました。</p> <p>本場中国で学んだ中国語は、会話力のレベルを上げることを重視したものでした。そのためこの三週間の間で中国語の会話力は大きく成長しました。日常生活で学んだばかりの中国語を活かしたときはとても気持ちがよかったです。これを期に、さらに自分自身でもっと中国語に磨きをかけたいと思いました。</p> <p>この語学研修はただ語学を学ぶだけでなく、その国の価値観や文化などに直接触れるいい機会にもなりました。そして直接その国にいる人と会話し、共に語学を学ぶ外国の留学生と会話することにより交流の輪を大きいものにしていくのもとても有意義です。</p> <p>いずれそうして築かれた交流の輪は将来何かしら必ず役に立つものがあるはずです。また、こういった外国に研修・留学する機会などがあれば私は積極的に参加したいと考えております。</p>
謝辞	<p>今回、助成金をいただいたことにより、両親に頼ることなく、研修に行くことが出来ました。この3万円という貴重な助成金は、研修を考えるうえで重要な要素の一つでした。助成金をいただき、ありがとうございました。</p>

所属・学年	機械・社会環境系・1年
氏名	岩山 光貴
報告	<p>三週間の留学を終えて、やはり本当に実践的な中国語を学ばなれば中国に行くべきだと感じました。中国の先生が中国語のみで授業をするので、必死についていこうと聞くことに集中することでリスニング力が上がりました。また、少人数のクラスなので一人ひとりが授業で多く発言することができ、正しい発音も身につけやすいので、とても効率良く中国語の勉強ができたと感じています。</p> <p>また、クラスで外国のクラスメイトとコミュニケーションをとるときは、英語を使うことになります。その時、他の国のクラスメイトはとても流暢な英語を話しますが、僕たち日本人は、ほんの少ししか英語でコミュニケーションをとれませんでした。</p> <p>もっと深く相手を理解するには自身の英語力、もしくは中国語の力を底上げしなくてはならないと思い、帰国した現在でも二つの外国語を同時進行で勉強中です。次回、留学のチャンスがあれば今回よりももっと話せるようになってより収穫の大きいものにしたいです。</p>
謝辞	<p>KIT げんき会からの3万円の助成は、非常に役に立ちました。その分、一生懸命勉強に励んできました。今後、留学生支援などで貢献したいと思っています。</p>

所属・学年	情報電気エレクトロニクス系・1年
氏名	久保田 真伍
報告	<p>この研修での1番の収穫は他の国の人たちとの交流でした。クラスでは、韓国、ロシア、タイ、パキスタン、モンゴル、アメリカ、アラブ、イギリス、カザフスタンの国々の友達ができましたし、一緒に勉強したり、ご飯を食べに行ったりして、いい思い出を作ることができました。</p> <p>引率の鈴木先生のおかげでハルビン工程大学、東北林業大学で日本語を勉強している学生たちと交流する機会もありました。日本に興味をもち日本語を勉強している中国の学生たちと話すのはとてもいい勉強になりました。僕自身が日本のことを全然知らないことを実感し、もっと日本のことを勉強しなくてはならないと思えました。</p> <p>他の国の人と話すには英語の力が低いことも実感でき、この研修で中国語だけでなく英語の力も伸ばそうと思いました。この研修はたった3週間でしたが、僕にとってかけがえのないとても充実した時間になりました。</p>
謝辞	<p>研修前は、経済的に悩んだ時期もありましたが、KIT げんき会から3万円の助成があったおかげで、経済的負担も減りました。本当にありがとうございました。</p>

所属・学年	バイオ環境・マテリアル系・1年
氏名	堀田 尊
報告	<p>今回の中国語語学研修の参加の理由は二つあります。一つめは、私は海外に行ったことがなく、自分の視野を広げるためです。もう一つは、最近注目されている中国がどのような国なのか興味があったからです。</p> <p>中国語の勉強は今まで経験がなかったので全く話すことができない状態でしたが、授業では留学生専用のクラスで他の国の人たちと一緒に基礎的なことから勉強しました。はじめは緊張や自分の英語が通じるのかなどの不安があり、なかなか他の国の留学生の人たちに話しかけられませんでした。勇気をもって話かけても自分の話していることを理解してもらえず苦労しましたが、筆談やジェスチャーを使って話かけているうちに理解してもらい、だんだんとクラスの人たちと打ち解けることができました。</p> <p>研修に参加する前は、中国はテレビや新聞で見るイメージしかなく、悪いイメージしかありませんでした。実際に三週間留学してみると悪いイメージは一部の人によるものだとわかりました。それ以上に中国の人の親切さや温かいところに触れてとても良いところだと思いました。</p>
謝辞	<p>今回の研修に際し、助成金をいただき、ありがとうございました。研修で学んだことを大学の中でも貢献できるようにしていきたいと思っています。</p>

平成 23 年度 K I T げんき会事業実施報告書

担当課名： 研究協力課

1 実施事業名

語学研修プログラムへの参加旅費の助成（ドイツ）

2 事業概要

(1) 研修先

フライブルク大学

(2) 研修期間

2011年8月11日 - 2011年9月2日

(3) 助成対象・金額

5万円

	氏 名	所属・学年
1	竹田 誠也	社会環境工学科・3年
2	荒尾 健太	社会環境工学科・3年
3	濱島 俊	マテリアル工学科・3年
4	福西 康平	マテリアル工学科・3年
5	太田 有香	機械・社会環境系・1年
6	高橋 邦英	機会・社会環境系 1年
7	杉西 幸恵	バイオ環境・マテリアル系・1年

3 助成対象者報告

所属・学年	社会環境工学科・3年
氏名	竹田 誠也
報告	<p>私は、今回、ドイツのフライブルクで3週間の語学研修に参加しました。研修中の生活は、平日の午前中にドイツ語の授業を受け、午後からは街を観光したり、フライブルク大学が主催するレクリエーションプログラムに参加したりしました。週末には、フランスやスイスへの日帰り旅行に行ったりしました。</p> <p>今回の語学研修は、自身にとって初めての海外であったため、言葉が通じない異国での生活に多少の不安はありましたが、現地では、他大学から参加している日本人の学生もたくさんいたので、あまり抵抗なく、向こうでの生活に慣れることができました。</p> <p>ドイツ語の授業は、日本語をほとんど使用せず、ドイツ語をたくさん読んだり、書いたりしたので、短い期間でしたが、研修前に比べ、だいぶドイツ語に慣れることができました。また、レクリエーションなどを通じて、たくさんの学生と交流することができ、貴重な体験となりました。</p>
謝辞	<p>この度、本研修において、奨学金を交付していただいたKITげんき会の会員の皆様にお礼申し上げます。お金をあまり持っていない学生にとっては、たくさんの費用が必要となる海外への研修は、なかなか参加しにくく、奨学金の交付はたいへんありがたいものでした。今後も、こうした学生への支援をよろしくお願いします。</p>

所属・学年	社会環境工学科・3年
氏名	荒尾 健太
報告	<p>私はドイツ語研修でたくさんのことを学びました。語学はもちろんのこと、コミュニケーション、文化の違い、日本の素晴らしさ、日本の悪いところなど、他国に身を置くことで、初めて自国のことや自分の未熟さを知ることが出来ました。ドイツでの生活は毎日が新鮮で目に映るものひとつひとつに感動しっぱなしでした。ヨーロッパの街並みはとても美しく教会は神秘的で城は壮麗で素晴らしく、とても貴重な経験ができたと思いました。</p> <p>わたしが滞在したフライブルクは環境都市といわれるほど、省エネに力を入れて取り組んでいる都市でした。街のいたるところにソーラーパネルが設置されており、原子力発電の問題で電力不足の日本が今後参考にできる都市だと思いました。</p> <p>ドイツでの1ヶ月間は私の価値観を大きく変え、今後の私の人生においてとても大きな糧になるものでした。そして、今回の経験を通して、もっと世界の情勢を知りたいと思いました。</p>
謝辞	<p>今回のドイツ語学研修での旅費の助成を頂いたKITげんき会会員みなさんに感謝します。本当にありがとうございました。</p>

所属・学年	マテリアル工学科・3年
氏名	濱島 俊
報告	<p>今回のこのドイツ語研修では、3週間という短い時間でしたが、数多くの経験をする事ができました。また、たくさんのご事を得る事ができました。</p> <p>一番大きな成果は、ネイティブの先生からドイツ語を学ぶ事が出来たことだと思います。大学一年の時に第二外国語としてドイツ語を選択していましたが、基礎中の基礎しか学んでいませんでした。これまでより、より深くドイツ語について学びたいと思ったのが、今回の研修に参加したきっかけでもありました。現地での授業は、発音の難しさや冠詞の多さ・複雑さに驚きを感じましたが、対話形式の講義もあり実践的に学ぶ事が出来ました。現在は、独検合格を目指して勉強をしているところです。</p> <p>また、レクレーションという形で様々なことを体験することが出来ました。電車で遠方の街まで一人旅をしたり、ドイツの文化、人の優しさ、価値観などに触れ、私自身も大きく成長出来たと感じています。この研修を機に世界の出来事にも関心が行くようにもなりました。この経験を糧に今後も様々なことに目を向け、色々なことを吸収していこうと思います。</p>
謝辞	<p>この度は、奨学金という形で補助をして頂きまして、有り難うございました。皆様のお陰でとても有意義な時間を過ごす事が出来ました。心よりお礼申し上げます。</p>

所属・学年	マテリアル工学科・3年
氏名	福西 康平
報告	<p>私はドイツのフライブルク大学で行われた語学研修プログラムで、語学力の重要性、語学を学ぶことの楽しさを学びました。日本語の通じないドイツでの生活は、“伝えたいことが伝えられない”ことばかりで、人とコミュニケーションがとれないことのつらさや悔しさを味わいました。また、こういった環境の中で、少しずつ勉強し、少しずつドイツ語を理解し、実際の生活の中で使用して、意味が通じたり、理解できたりしたとき、語学を学ぶことの楽しさを感じました。</p> <p>そして帰国したとき“もっと語学力をつけてまた海外に行きたい”という気持ちが強くなりました。このような経験は、日本ではなかなか味わうことができません。本研修は、自分の人生の中で忘れられない貴重な体験となりました。そして、本研修で得た経験をこれからの人生に役立てていきたいと思えます。</p>
謝辞	<p>本研修への支援、誠にありがとうございました。</p> <p>本研修で得た成果は、決して無駄にせず、これからの私の人生において活かしていきたいと思えます。</p>

所属・学年	機械・社会環境系・1年
氏名	太田 有香
報告	<p>ドイツに行く前は、初めての海外という事もあり色々不安な事が多かったのですが、行ってみるとドイツの大学には自分と同じように日本から語学研修に来ている他の大学の学生もいて安心しました。</p> <p>実際、3週間滞在して大学で学んだ言葉を、街で買い物をする時やレストランで食事をする時などで使う事を通して、実践的に語学を学ぶことができました。また、その国の文化や暮らしている人々の価値観の違いに直接触れる事で、その違いを理解する良い機会になったと思います。このドイツにいた3週間は人生の中ではとても短い時間だったかもしれませんが、しかし、この3週間は自分の人生の中では日本では絶対経験のできない、とても貴重な体験ができた時間であって、私の将来の選択に必ず役立つものになったと思います。もし、またこのような語学研修の機会があったら、ぜひ参加したいと思います。</p>
謝辞	<p>ドイツ語語学研修において、奨学金を支給して下さい、誠にありがとうございます。</p> <p>私がドイツで言語や文化といった、様々な事を学ぶ事ができたのも貴会の御支援のおかげです。心より感謝しております。</p>

所属・学年	機会・社会環境系 1年
氏名	高橋 邦英
報告	<p>初め私は、この語学研修は、約 3 週間という滞在期間と、それに加えて日本語の通じない地で生活をするという自分にとって少々ハードルの高い内容だと思っていました。</p> <p>ですが現地での勉強、生活はさほど苦になるものではありませんでした。勉強は少々苦労する点もありましたが無事終わることができ、滞在した周辺の地域や国を観光したり、建造物を知り楽しむことができました。また期間中に 1 人での旅行をすることもでき、自分に大きな自信をつけることができました。</p> <p>この期間で学んだ事は私にとって大きな一歩になりました。ですが 3 週間という期間では簡単な会話を身に着けるだけしかできずとても短く感じました。今後は自力で語学を学び、大学を卒業するまでに 1 人で海外を周れるようになりたいと思っています。</p>
謝辞	<p>語学研修は勉強だけでなく、現地の様々な場所を観光したりするので費用の支援をして頂いたのはとてもありがたいことでした。</p> <p>本当にありがとうございました。</p>

所属・学年	バイオ環境・マテリアル系・1年
氏名	杉西 幸恵
報告	<p>私はドイツに行き、人とのつながりの素晴らしさを感じました。どこへいっても知らないことばかりで困っていると必ず誰かが助けてくれました。付添いの先生方はもちろん、地元の方々も私の片言の英語を一生懸命理解してくれて、人は優しさがあれば生きていけるのだと感じました。</p> <p>私のドイツ語のレベルは、行く前と行った後でその差が明らかほど上がりました。私はあいさつの1つも満足にできませんでした。また外国語を話すことにすこし恥ずかしさがありました。そんな状態で上達できるのか不安だったのですが、現地に行けばその国の言葉しか通じないので、恥ずかしいなんて思っている場合ではなく、辞書を片手にコミュニケーションをはかっていました。</p> <p>滞在中、午前はドイツ語の授業があり、午後に時間ができたときは買い物や観光を楽しみました。そして、ドイツの色々な文化に触れることが出来ました。ドイツには、日本にはない外国特有の文化がたくさんあります。それを身をもって感じる事ができたのはとてもいい経験でした。機会があればまた行ってみたいと思います。</p>
謝辞	<p>今回私たちがこのような有意義な研修を経験することができたのもKITげんき会会員の皆様方のご協力あってのことです。この助成のおかげで旅費の面での心配がなくなり、家族にドイツに行くことへの許可を得やすくなりました。本当にありがとうございました。</p>

平成 23 年度 K I T げんき会事業実施報告書

担当課名： 研究協力課

1 実施事業名

語学研修プログラムへの参加旅費の助成（カナダ）

2 事業概要

(1) 研修先

ハンバー工業大学

(2) 研修期間

2011年9月4日 - 2011年9月26日

(3) 助成対象・金額

5万円

	氏名	所属・学年
1	南 遥佳	機械工学科・3年
2	佐藤 佳美	機械工学科・2年
3	高木 健司	機械工学科・2年
4	田邊 正人	機械・社会環境系・1年
5	吉田 雄太	電気電子工学科・2年
6	笹山 隼輔	情報電気エレクトロニクス系・1年
7	梶原 奈々	マテリアル工学科・4年

3 助成対象者報告

所属・学年	機械工学科・3年
氏名	南 遥佳
報告	<p>昨年9月にカナダの語学研修に参加し、貴重な経験をさせていただきました。研修期間中は、会話を上達させたいという思いがあり、とにかく限られた時間を無駄にしまいと必死でした。</p> <p>休日の日にはひとりでモールに出かけて早口で様々なことを言うてくる店員さんとの会話に挑戦し、学校の帰りのバスではクラスメイトに積極的に話しかけ、家にいるときにはホストファミリーに茶道部だった経験を生かして日本の文化を伝えてみたり、あらゆる手を尽くして会話力向上を図りました。</p> <p>3週間のプログラムの最終日には、日本の宗教についてクラスの前でプレゼンをする機会も与えていただきました。自分のつたない英語を使うことに抵抗を感じていた私でしたが、3週間でその壁を壊して積極的に伝える大事さを学ぶことができました。</p> <p>うまくいかないときにもめげずに頑張れたのは、授業の合間に親身になって励まし、アドバイスをくれた荒谷先生や、個性のある仲間6人のみんなの笑顔でした。みんなでお誕生日を祝ったり、ナイアガラの滝で自然の驚異に触れたり、CNタワーで絶景を見たり、はじめてのメジャーリーグに圧倒されたりと、トロントならではのことを体験することもできました。</p>
謝辞	<p>KIT げんき会のみなさまにご支援いただき充実した3週間を送ることができました。ありがとうございました。</p>

所属・学年	機械工学科・2年
氏名	佐藤 佳美
報告	<p>今回、約3週間のカナダ語学研修に参加して沢山の思い出を作ることができ、また学んだことも多くありました。カナダに到着した時は不安で一杯でしたが今思うと本当に参加してよかったと思っています。</p> <p>今回のカナダ語学研修を終えて、一番変わったことは英語への認識です。今まで英語もコミュニケーションをとるものだということが頭では分かっているつもりでもやっぱり勉強する科目というイメージの方が強かったのですが、今回の語学研修でしっかりと“英語＝コミュニケーションをとるもの”という概念を得て来ることができました。また、もっと沢山のことを英語で伝えたいと強く思いました。このことを意識して今後の生活や学習に生かしていければと思います。</p> <p>また、一緒にカナダ語学研修に行った人達とも仲良くなることができ大変楽しい研修になりました。カナダに到着した時に不安になったあの景色が今ではとても懐かしいです。今回の研修に参加できて本当に良かったと思っています。ありがとうございました。</p>
謝辞	<p>今回のカナダ研修にあたって KIT げんき会様に助成していただき本当に感謝しています。おかげで素晴らしい経験をすることができました。この経験を今後生かしていけるよう頑張っていきたいと思っています。今回は本当にありがとうございました。</p>

所属・学年	機械工学科・2年
氏名	高木 健司
報告	<p>私がカナダ短期語学研修に参加した動機は、自分の夢の実現のために自身の英語のレベルを上げることでした。その必要性は前から感じていて個人的に勉強はしていたのですが、いまひとつマンネリ化してしまい、日々の授業の忙しさも加わってモチベーションが下がっていました。</p> <p>そこで一度、英語しか通じない厳しい環境に身を置くことで背水の陣で英語に臨もうと決意したのです。実際この3週間の語学研修は私の予想をはるかに超える素晴らしいものでした。自信の英語学習を見直すだけでなく生き方まで見つめなおすことになりました。</p> <p>私は初め英語を学ぶためにこの研修に参加しました。しかし実際英語ももちろんですが、それ以上に大切なことを学びました。それは、笑顔と思いやりの大切さです。トロントでは、人々に笑顔があふれていました。また、女性にドアを開けてあげるなどの紳士的行動が生活に根付いており、非常に感動しました。この笑顔や思いやりの習慣を日本でも大切にしていきたいと思います。人は自分のために働くことでは十分能力を発揮することはできない。誰かのために働くことによって、十二分に能力を発揮できるようになると感じました。</p>
謝辞	<p>報告で述べたような素晴らしい経験ができたのも、このKITげんき会からの助成のおかげです。ありがとうございます。</p>

所属・学年	機械・社会環境系・1年
氏名	田邊 正人
報 告	<p>このカナダ研修は私にとって、とても良い経験になったし、思い出深いものになった。海外に行くのは初めてなので、人・物・街、見るもの全てが新鮮だった。正直、英語には自信がなかったし外国人と話したことなど全然なかったので、不安だった。しかし、ホストファミリーは優しいし、ルームメイトは知らないことを教えてくれて、フレンドリーだったのでホームステイの生活は充実していた。また、授業でもクラスメートがみんなフレンドリーだったので親しみやすく、友達も出来た。</p> <p>カナダで授業を受けていて思ったことは、みんな授業に熱心で疑問があったら、どんどん先生に質問していたことだ。日本ではこのように自分が思ったことを発言して積極的に授業に参加している姿はあまり見られない。日本では授業をただ受動的に受けているという感じだったが、カナダでは積極的に授業に参加しているという感じだ。授業にいい緊張感があって授業が良かった。</p> <p>あっという間の充実した3週間だった。たった3週間なので英語が劇的に進歩したわけではないが、今までしてきた勉強を見直す良い機会になった。やはり、英語は日本語と同様に言語なので机に向かって文法や文章を読む勉強をしているだけでなく、実際に英会話をして考えを人に伝え、人とのコミュニケーションをすることが英語を学ぶ上でとても重要で、そうすることで本当の英語力がつくのだと思った。実際、同じレベルのクラスメートの方が断然英語を話すのが上手だったし、自分の考えをしっかり伝えていた。今までの英語の学習に足りなかったものはそれだと思った。</p>
謝 辞	<p>カナダで充実した3週間を送れたのはKITげんき会会員の皆様からいただいた奨学金があったおかげです。そのお気持ちにとっても感謝しています。ありがとうございました。海外に行ったことで自分の視野が広がったと思います。この経験を大事にしてこれからの英語の学習や生活する上で生かしていこうと思います。</p>

所属・学年	電気電子工学科・2年
氏名	吉田 雄太
報告	<p>自分にとってとてもためになる語学研修だった。自分はあまり英語が好きではない、どちらかという嫌いである。国語・英語という語学があまり好きではない。それを克服しようと今回の語学研修に申し込んだ。昨年も参加しようか悩んだが行動に移せなかった。今年皆からは少し後れての参加、昨年同様悩みに悩んだ結果参加することにした。行動に移せて良かったと今になって強く思う。</p> <p>今回の語学研修で自分にとってもっともためになったのは、他の国の人と授業を受講したり、会話したことだ。他国の人には授業中も間違っていようがどんどん発言していく。日本にはない風潮でとてもいいと思った。自己主張が強いと感じた。日本もこうであるべきだと思った。</p> <p>英語力が凄く伸びたかといわれると、たった3週間でそこまで伸びた訳でもない。でも、この語学研修で英語の大切さを身をもって感じ、これから勉強しても損はしない物だと思った。これだけでも英語嫌いな自分にとっては大きな収穫だったと思う。これからはあまり嫌いという意識より「今後のため」という意識をもって英語に取り組めそうだ。</p> <p>参加できて本当に良かった。</p>
謝辞	<p>今回このようなためになる研修に助成をいただき本当に感謝しています。</p> <p>今後は何らかの形で恩返しができるかと考えています。</p>

所属・学年	情報電気エレクトロニクス系・1年
氏名	笹山 隼輔
報告	<p>今回、カナダの語学研修を通して、学んだことはたくさんありました。その中で一番印象に残ったのは、勉強に年齢は関係ないということです。カナダでのクラスは各国から集まった留学生のみのクラスで、レベル別に分けられていましたが、自分のクラスにはアジア系の人たちが多かった気がします。そして驚いたのは自分が最年少だったことです。おそらく一番年上の生徒は自分の親よりも年が上であったような気がします。勉強に年齢は関係ない…。改めてそう実感することができました。</p> <p>また、自分のホームステイ先の家族の方もとてもいい人たちでした。自分がアレルギーを持っている食べ物は出さなかったりしてもらいとても助かりました。ホストファミリーの人たちのおかげでカナダでの生活がさらに良いものになったような気がします。</p> <p>最後に、またこのような機会があればぜひ参加してみたいと思います！</p>
謝辞	<p>今回カナダに語学研修に行くに当たり、奨学金を出していただいて、自分は本当に助かりました。これからも語学研修に行く生徒が増えることを願うばかりです。また、自分もまた行きたいです。本当にありがとうございました。</p>

所属・学年	マテリアル工学科・4年
氏名	梶原 奈々
報告	<p>今回のカナダ研修で感じたことは、世界には色々な人がいて、夢を持つ年齢に制限はなく、そして語学は現地で学ぶのがベストということである。</p> <p>私にとっては初の海外ではなかったが、ホームステイの経験はなかったため多少心配していた。事実、忙しい家庭だったため日本のような歓迎は無くホームシェアの様だったが、出歩いて経験を積むにはうってつけのホストファミリーだったと感じる。</p> <p>クラスは色々な国の留学生、しかも下は10代から上は50代という生徒で構成されていた。個性も様々で廊下に掲げてあった Make a difference というプレートの意味が良くわかった。カナダでの3週間は英語漬けだったので、格段に身になりやすかったと感じる。日本での10年間が無意味に感じるほどに。</p> <p>また、他の留学生は何歳の人でもこれからの夢をもっており、実現のための手段として英語を学んでいた。彼らの英語の捉え方の違いといい意味での貪欲さが英語を始めて数か月、数年でも自分のものになっている彼らと私達との違いではないかと感じた。</p> <p>あっという間の3週間だったが、世界は広くて言葉は現地で学ぶのが良いと身を持って体験した。</p>
謝辞	<p>今回、貴重な機会を与えてくださった KIT げんき会の皆様に感謝しております。本当にありがとうございました。また、これからもっとたくさんの方々に世界を見る機会が与えられますことをお祈りしております。</p>

1 実施事業名

インターナショナルCアワー開催の助成

2 事業の概要

留学生が本学の学生・教職員のみならず市民との交流の場を持つことにより、国際交流の促進を図る。

毎回違ったプログラムを通して、留学生が日本の伝統芸能や四季折々の祝い事やしきたりに触れ、日本文化への理解を深めること、また、日本人参加者が異文化について学ぶことも目的としている。

3 開催報告

2011年 4月21日 オホーツク・旅の案内

2011年 6月 9日 時速8キロの南極旅行

2011年 7月13日 被災地に送る絵手紙を描こう

2011年 8月10日 流しそうめん

2011年10月 7日 折り紙

2011年11月25日 日本の「こなもん」文化

2012年12月16日 インターナショナルコンサート

2012年 1月31日 巻き寿司

4 謝辞

インターナショナルCアワーを開催するにあたり、ご支援いただき、誠にありがとうございました。お陰をもちまして、全8回の開催を盛況のうちに無事終了することができました。

これも皆様のご支援あってのことと国際交流センター関係者一同、感謝いたしております。皆様からのご支援により、手作りのお菓子を含めた茶菓と飲み物を用意させていただきました。そのおかげで、温もり感のある場を提供できただけでなく、留学生と市民、一般学生を含めた交流を促進し、異文化理解を深めることができたと思っております。

今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

1 実施事業名

図書館配架用学生向け参考図書購入の助成

2 事業の概要

図書館に配架されている参考図書等で、新版が出版されているもの又はカタログ等から利用が見込まれる新規の参考図書等を追加購入することによって、学生への教育・学習を支援する。なお、場合によっては電子媒体の資料を購入することもある。

3 購入図書一覧

別紙のとおり

4 謝辞

皆様からのご厚志は、本学の教育、学習支援のために図書館資料の充実に役立たせていただいております。この場をお借りし感謝申し上げます。

北見工業大学では、一般市民の方にも大学図書館を大いにご利用いただけるよう一般図書等の充実やコミュニケーションホール等の施設開放も行っております。今後もより一層開かれた大学づくりを目指し、地域と一体になれるよう邁進していきますので応援のほどよろしくお願いします。

KITげんき会事業費による購入図書一覧

別紙

番号	書名	数量	単価	金額(税込)
1	アトキンス 物理化学〈上〉 (第8版)	1	5,506	5,506
2	アトキンス 物理化学〈下〉 (第8版)	1	5,602	5,602
3	食品科学の基礎 (第2刷 (一部改訂))	1	2,390	2,390
4	有機化学演習	1	3,091	3,091
5	人体の構造と機能 — コア・スタディ	1	5,409	5,409
6	食品加工貯蔵学	1	2,318	2,318
7	エネルギー便覧 プロセス編	1	22,218	22,218
8	分析化学—溶液反応を基礎とする	1	3,187	3,187
9	表面技術者のための電気化学 (第2版)	1	3,091	3,091
10	新アポロン独和辞典	1	4,057	4,057
11	標準中国語辞典 (第2版)	1	2,221	2,221
12	地域経済学	1	2,608	2,608
13	グローバル社会の国際関係論 (新版)	1	1,932	1,932
14	トピックによる日本語総合演習〈上級〉 — テーマ探しから発表へ (改訂版)	1	1,449	1,449
15	トピックによる日本語総合演習—テーマ探しから発表へ 中級後期 (改訂版)	1	1,449	1,449
16	トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 中級前期 (改訂版)	1	1,449	1,449
17	トピックによる日本語総合演習—テーマ探しから発表へ 上級用資料集 (第3版)	1	2,028	2,028
18	日本国憲法を考える	1	665	665
19	基本的人権の事件簿—憲法の世界へ (第4版)	1	1,835	1,835
20	塑性加工	1	3,477	3,477
21	超精密加工の基礎と実際	1	2,704	2,704
22	シリーズ環境と地質〈第3巻〉水環境と地盤災害 原書名: GEOLOGY and the Environment (Pipkin, Bernard W.; Trent, D. D.)	1	3,381	3,381
23	大学講義 技術者の倫理入門 (第四版)	1	1,642	1,642
24	最新読図ワークブック—クイズ形式で楽しみながらナビゲーション力がアップ!	1	1,738	1,738
25	基礎から学ぶ電気回路計算	1	2,318	2,318
26	固体物性入門—例題・演習と詳しい解答で理解する	1	3,284	3,284
27	オペレーティングシステム	1	2,801	2,801
28	ネットワーク利用の基礎—インターネットを理解するために (新訂版)	1	1,787	1,787
29	オブジェクト脳の作り方—スーパーエンジニアへのパスポート J a v a ・ U M L ・ E J B をマスターするための究極の基礎講座	1	2,704	2,704

KITげんき会事業費による購入図書一覧

別紙

番号	書名	数量	単価	金額(税込)
30	ソフトウェア工学入門	1	1,642	1,642
31	ソフトウェア開発	1	2,704	2,704
32	「エコ罪びと」の告白—私が買ったモノはどこから来たのか？ 原書名：Confessions of an Eco-Sinner:Tracking Down the Sources of My Stuff(Pearce,Fred)	1	1,738	1,738
33	暗号の数学的基礎—数論とRSA暗号入門 原書名：The Mathematics of Ciphers:Number Theory and RSA Cryptography(Coutinho,S.C.)	1	3,091	3,091
34	人工知能の基礎	1	2,125	2,125
35	形式言語と有限オートマトン入門—例題を中心とした情報の離散数学	1	2,704	2,704
36	画像情報処理〈1〉解析・認識編	1	2,511	2,511
37	放射化学	1	4,347	4,347
38	医学概論	1	1,545	1,545
39	看護の倫理資料集—看護関連倫理規定／綱領／宣言の解説（第2版）	1	3,091	3,091
40	医療事故 — 看護の法と倫理の視点から（第2版）	1	2,801	2,801
41	看護学における理論思考の本質 【原書名：The Nature of Theoretical Thinking in Nursing,2nd ed.(Kim,Hesook Suzie)】	1	3,091	3,091
42	看護理論 — 理論と実践のリンケージ	1	3,864	3,864
43	なぜいま医療でメタ理論なのか—構造構成主義研究〈3〉	1	2,511	2,511
44	ケアの本質：生きることの意味	1	1,449	1,449
45	臨床医学総論 第2版	1	4,347	4,347
46	理工系学生のための生命科学・環境科学	1	2,704	2,704
47	高齢者・障害者の生活をささえる福祉機器〈1〉（新版改訂）	1	1,545	1,545
48	高齢者・障害者の生活をささえる福祉機器〈2〉（新版改訂）	1	1,545	1,545
49	高齢者・障害者の生活をささえる福祉機器〈3〉（新版改訂）	1	1,545	1,545
50	生体物性／医用機械工学	1	3,091	3,091
51	入門編生産システム工学 総合生産学への途 第5版	1	3,187	3,187
52	画像処理工学—応用事例編	1	3,767	3,767
53	入門建設振動学	1	3,284	3,284
54	ソ連とは何だったか	1	2,415	2,415
55	有機化合物のスペクトルによる同定法—MS, IR, NMRの併用	1	4,636	4,636
56	今こそ知りたい最新ガイド太陽光発電	1	2,221	2,221
	合 計	56	171,842	171,842

平成 23 年度 K I T げんき会事業実施報告書

担当課名： 研究協力課

1 実施事業名

若手研究者の国際会議参加旅費等の助成

2 事業の概要

若手研究者が国際会議へ参加する際の旅費等を一部助成(1 人あたり 15 万円)し、教育研究の推進を図る。

3 助成対象者報告

所属学科等	社会環境工学科
氏 名	駒 井 克 昭
渡航先	ブリスベン (オーストラリア)
参加国際会議等	The International Association for Hydro-Environmental Engineering and Research (IAHR), Engineers Australia (EA)
渡航期間	2011/6/26-2011/7/1
報 告	Mechanism of Water Exchange at the Sediment-Water Interface in a Tidal Estuary という題目で口頭発表を行いました。国際会議では世界各地から集まった水環境工学の研究者との有意義な情報交換が行えました。また、現地滞在中に Nielsen 博士らの Queensland 大学の研究グループとセミナーを行い、国際共同研究 (国際雑誌に投稿中) を進めることができました。
謝 辞	この度は、海外渡航に助成頂き、心より感謝申し上げます。今回の海外渡航において、国際会議での研究発表はもちろんのこと、現在、国際共同研究を進めることもできました。非常に内容の濃い渡航ができましたこと、重ねてお礼申し上げます。今回の渡航をもとに、さらに教育・研究の両面での国際交流を発展、充実させていきたいと思っております。

所属学科等	未利用エネルギー研究センター
氏 名	ハ久保 晶弘
渡航先	エジンバラ（英国）
参加国際会議等	7 th International Conference on Gas Hydrates
渡航期間	2011/7/17-2011/7/21
報 告	<p>ガスハイドレート国際会議で以下 2 件の研究発表（first author のみ）を行なった。</p> <p>発表 1 : Hachikubo et al.: Molecular and isotopic compositions of hydrate-bound hydrocarbons in subsurface sediments from offshore Sakhalin Island, Sea of Okhotsk.</p> <p>発表 2 : Hachikubo, et al.: Molecular and isotopic characteristics of hydrocarbons in sediments and gas hydrate at eastern margin of Japan Sea.</p> <p>いずれも、オホーツク海サハリン島沖および日本海上越沖で採取された天然ガスハイドレートのガス分析結果に関する報告であり、会議に出席した専門家との議論により、ガス起源や天然ガスハイドレート生成過程に関する理解が深まった。</p>
謝 辞	<p>ガスハイドレート国際会議は3年に1度の頻度で開催され、全世界のガスハイドレート研究者が一堂に会する貴重なチャンスであり、海外渡航費用を助成いただくことで、実質的にこのような重要な国際会議に出席できる機会を与えていただいたKIT げんき会に厚く御礼申し上げます。</p>

所属学科等	SVBL (サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー)
氏 名	石 村 敬 久
渡航先	北京 (中国)
参加国際会議等	The 2nd Federation of Asian Polymer Societies Polymer Congress (FAPS-PC2011)
渡航期間	2011/5/8-2011/5/11
報 告	<p>FAPS はアジア圏における高分子研究の学会であり、私は“Interaction analysis between sulfated polysaccharides and poly-L-lysine using a surface plasmon resonance”という題目で発表致しました。</p> <p>本発表は硫酸化糖鎖がウイルス糖タンパク質と相互作用する過程において、硫酸化糖鎖の構造がどのように影響するかを実験しまとめたものです。私の拙い英語に加えて新規テーマであり、もっと修練しないと、と痛感しましたが、無事に研究成果の発表を終えたと思います。</p> <p>また、自身の発表のみならず、同世代の研究者の堂々とした発表や著名な先生方の講演は研究の展開方向を考える良い機会となり、とても良い刺激を受けました。</p>
謝 辞	<p>海外での研究発表、情報収集などの貴重な経験が可能となったのも KIT げんき会より助成をして頂いたことによるものと存じております。一連の経験を今後の研究活動に活かしていきたいと考えております。この度は助成対象に選定して頂き、誠にありがとうございました。</p>

所属学科等	共通講座
氏 名	水 本 正 晴
渡航先	クラクフ（ポーランド）
参加国際会議等	Studia Logica Conference Trends in LogicIX
渡航期間	2011/6/3-2011/6/6
報 告	<p>今回頂いた助成により、国際的な会議で、以下の発表を行いました。</p> <p>Masaharu Mizumoto, Wittgenstein and Turing vs. Cantor</p> <p>「カントール（Cantor）の対角線論法」という 19 世紀末にできた理論があります。これは、数学基礎論において非常に重要な理論です。私は、かつて著名な哲学者ウィトゲンシュタイン（Wittgenstein）が試みたように、哲学者の立場から対角線論法を批判することを研究テーマのひとつとしています。</p> <p>対角線論法は数学的には確立されたものであり、批判を展開するには著名な教授を含めた海外の研究者と議論することが不可欠で、研究を進める上で非常に有意義な出張をすることができました。</p>
謝 辞	<p>上記のように研究を進める上で国際会議出席は非常に有意義なものとなりました。また、クラクフの街は大変美しいものでした。</p> <p>このたびは助成をいただき、ありがとうございました。</p>

平成 23 年度 K I T げんき会事業実施報告書

担当課名： 企画広報課

1 実施事業名

女満別空港広告看板掲出料の助成

2 事業の概要

平成 23 年度から、広告効果を上げる目的で掲出場所を 2 階出発ロビーに変更し、空港利用者に本学の存在をアピールしています。

3 広告掲出状況

“ 搭乗手続前にちょっと見上げて見てくださいね! ”



4 謝辞

本事業に関し、平成 16 年度から継続してご支援いただき心から感謝申し上げます。今後も地域に輝き、地域に貢献する大学として邁進していく所存ですので引き続きご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

北見工業大学後援会「KITげんき会」
平成23年度決算書

収入の部

項 目	予 算	決 算	備 考
会 費	2,500,000	2,355,000	円 個人会員(48件) 265,000 円 法人会員(106件) 2,090,000
寄 附 金 等	1,500,000	1,654,000	同窓会会員からの寄附(119件) 1,654,000
雑 収 入	1,000	467	預金利息 467
前年度からの繰越	2,047,217	2,047,217	
合 計	6,048,217	6,056,684	

支出の部

項 目	予 算	決 算	備 考
後援会運営費	400,000	175,447	円
通 信 費		169,697	印刷物郵送料、返信用葉書
会 議 費		0	役員会、総会
事 務 費		5,750	事務諸雑費、振込手数料
印 刷 費		0	封筒印刷ほか
大学援助費	4,512,000	4,441,500	
学生に対する支援	3,187,000	3,117,000	大学院学生に対する奨学金支給 1,980,000 360,000×5人=1,800,000 180,000×1人=180,000 語学研修プログラム参加旅費の助成 850,000 30,000×5人=150,000 50,000×7人=350,000 50,000×7人=350,000 インターナショナルCアワー開催に伴う助成 87,000 図書館配架用学生向け参考図書購入の助成 200,000
研究者、研究生の 交流支援	600,000	600,000	若手研究者の国際会議参加旅費の助成 600,000 150,000×4人=600,000
大学広報等への支援	725,000	724,500	女満別空港広告看板掲出料の助成 724,500
予 備 費	1,136,217	0	
次年度繰越金		1,439,737	
合 計	6,048,217	6,056,684	

監 査 報 告 書

本会規約第6条第5項に基づき、平成23年度北見工業大学後援
会収支簿及び預金通帳類に関する監査を行った結果、適正に処理さ
れていると認めましたので報告いたします。

平成24年6月19日

監 事

小澤 資之郎



監 事

牧野 勇治




このたびの平成23年度監査において、会計年度を超えて入金
あった分を下記の通り確認します。

記

北見工業大学同窓会 1,040,000円

入金日 (平成24年5月8日)

平成24年6月19日

監事 小澤 實之郎 

監事 牧野 勇治 

北見工業大学後援会「KITげんき会」

平成24年度事業計画書

事業	摘要
1 会議	
1) 総会	年1回開催
2 支援事業	
1) 学生に対する支援	大学院学生に対する奨学金支給 語学研修プログラムへの参加旅費の助成 インターナショナルCアワー開催の助成 図書館配架用学生向け参考図書購入の助成
2) 研究者、研究生の交流支援	若手研究者の国際会議参加旅費等の助成
3) 大学広報等への支援	女満別空港広告看板掲出料の助成

北見工業大学後援会「KITげんき会」

平成24年度予算書

収入の部

項 目	予 算	備 考
会 費	2,300,000 円	個人会員100口 × 3,000円 = 300,000円 法人会員200口 × 10,000円 = 2,000,000円
寄 附 金 等	1,500,000	同窓会会員からの寄附 1,500,000円
雑 収 入	1,000	預金利息等
前年度からの繰越	2,047,217	
合 計	5,848,217	

支出の部

項 目	予 算	備 考
後援会運営費	400,000 円	
通 信 費	200,000	総会案内・印刷物郵送料、返信用葉書、振替手数料 総会、役員会 事務諸雑費 パンフレット、払込取扱票印刷
会 議 費	0	
事 務 費	100,000	
印 刷 費	100,000	
大学援助費	4,512,000	
学生に対する支援	3,187,000	奨学金支給 360,000円 × 5人 = 1,800,000円 語学研修プログラム参加旅費の助成 （カナダ）50,000円 × 10人 = 500,000円 （台湾）30,000円 × 10人 = 300,000円 （ドイツ）50,000円 × 10人 = 500,000円 インターナショナルCアワー開催の助成 87,000円 × 1件 = 87,000円 図書館配架用学生向け参考図書購入の助成 200,000円 × 1件 = 200,000円
研究者、研究生の 交流支援	600,000	若手研究者の国際会議参加旅費等の助成 150,000円 × 4件 = 600,000円
大学広報等への支援	725,000	女満別空港広告看板掲出料の助成 725,000円 × 1件 = 725,000円
予 備 費	936,217	
合 計	5,848,217	

北見工業大学後援会「KITげんき会」規約

(名 称)

第1条 本会は、北見工業大学後援会「KITげんき会」と称する。

(目 的)

第2条 本会は、地域と同窓会が一体となって、北見工業大学の発展及び学生の生活向上のための援助等に協力することを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 一 北見工業大学の発展のための援助
- 二 北見工業大学の学生の生活向上等のための援助
- 三 会費、寄付金品の受理及び処理
- 四 その他必要な事項

(組 織)

第4条 本会は、次に掲げる会員をもって組織する。

- 一 個人会員
- 二 法人会員

(役 員)

第5条 本会に次の役員を置く。

- 一 会 長 1人
- 二 副 会 長 若干人
- 三 常務理事 1人
- 四 理 事 若干人
- 五 監 事 2人

2 役員は、総会において選任し、又は解任する。

(職 務)

第6条 会長は、本会を代表し、会務を統括するとともに会議を招集して、その議長となる。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 3 常務理事は、会計及び本会の運営上重要な事項を処理する。
- 4 理事は、本会の運営上必要な事項を審議する。
- 5 監事は、本会の会計を監査する。

(任 期)

第7条 役員任期は2年とする。但し、再任を妨げない。

2 役員に欠員が生じた場合は、必要に応じて補充する。但し、補充された役員任期は、前任者の残任期間とする。

(総会及び役員会)

第8条 総会及び役員会は、年1回開催しなければならない。

但し、必要に応じて会長が臨時に召集することができる。

- 2 総会に次の事項を付議する。
 - 一 役員選任、解任

- 二 事業計画及び事業報告
- 三 予算及び決算
- 四 規約の制定及び改廃
- 五 その他本会の運営に必要な事項

- 3 役員会は、会長、副会長、常務理事、理事をもって構成する。
- 4 役員会は、本会の事業運営及び総会に付議すべき事項を審議するものとする。
- 5 総会及び役員会の議長は、会長がその任にあたる。
- 6 総会及び役員会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(顧問)

第9条 本会に顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、役員会の議を経て、会長が委嘱する。

(事務局)

第10条 本会の事務を処理するため、事務局を北見市公園町165番地北見工業大学内に置く。

- 2 事務局には、次の職員を置く。

- 一 事務局長
- 二 事務局員

- 3 事務局長は、常務理事の職務を補佐することとし、会長が北見工業大学の教職員の中から委嘱する。

- 4 事務局員は、会長が委嘱する。

(会計)

第11条 本会の目的の達成及び運営に資する資金は、会員の会費、寄付金等をもって充てる。

- 2 会員の会費は、次に掲げるとおりとし、毎年、定められた時期に納入する。

- 一 個人会員 一口 3,000円
- 二 法人会員 一口 10,000円

- 3 本会の会計は、後援会運営費と大学援助費に区分して経理する。

- 4 後援会運営費は、後援会運営上必要な経費をいう。

- 5 大学援助費は、学術振興、国際交流、学生の生活向上等に必要な経費をいう。

(会計年度)

第12条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(雑則)

第13条 この規約に定めるもののほか、本会に関し必要な事項は、役員会が別に定める。

附 則

- 1. この規約は、平成17年11月30日から施行する。
- 2. 初年度の会計年度は設立総会日より平成18年3月31日までとする。
- 3. 初年度の役員任期は設立総会日(平成17年11月30日)より平成20年3月31日までとする。